

寛永行幸 四百年祭



寛永3（1626）年9月6日、京都のまちには、大きな“うねり”に包まれていました。

戦国の時代を越えて、日本中の大名が集い、徳川幕府の総力をあげて、天皇をもてなす。それが、かつて「文化」と「平和」が一つになった、かけがえのない瞬間。
「寛永行幸（かんえいぎょうこう）」。

2026年、文化と平和を見つめなおす新たな祭典「寛永行幸四百年祭」を京都一帯で開催しています。本日は、四百年祭の後半期の内容や、全国への取組の広がり等について、ご報告します。

本事業は、文化庁 令和8年度「文化資源活用事業費補助金（全国各地の魅力的な文化財活用推進事業）」の補助を受けて、実施しています。

寛永行幸四百年祭について

【寛永行幸とは】

寛永行幸は、1626年（寛永3年）9月6日から10日まで、徳川将軍が天皇を二条城に招き、もてなした出来事です。

それは大坂夏の陣で豊臣家が滅亡してからたった11年後のことで、天皇と将軍の融和と平和の到来を世に知らしめるものでした。

5日間にわたる行幸では、善美を尽くした座敷飾り、贅沢な料理、舞楽、能楽、和歌や管弦の遊びなど、最上級のもてなしが繰り広げられました。

この行幸には後水尾天皇、その中宮で徳川秀忠の息女和子をはじめとする天皇の親族、そして朝廷の公家衆が随行。また幕府方では三代将軍・徳川家光のもと、全国230の大名のうち実に8割近くが参加したと伝えられています。

【寛永行幸行列とは】

三代将軍・徳川家光が、全国各地の大名を引き連れ、二条城から御所まで後水尾天皇を迎えに行き、行幸行列の前駆を務めました。その後、二条城へ向かう天皇の行列には、公家衆も大勢付き従い、総勢9,000人もの大行列となったと言われています。

（当時の規模）

朝廷方・幕府方をあわせて9,000人、馬540頭、牛車12台、輿470基



「二条城行幸図屏風」右隻 江戸時代（京都市指定文化財 泉屋博古館蔵）

【日本文化が花開いた寛永時代】

現代につながる多くの日本文化が、この時代に花開きました。

「寛永行幸」は、長く断絶していた朝廷と武家という二つの文化圏が、京都の地であらためて出会い、互いの作法を学びながら、新しい時代の秩序と美意識を共創した象徴的な出来事でした。

「寛永行幸」はその「文化的和解」の瞬間であり、そこから生まれた多層にわたる創造的結実は、後に「寛永文化」と呼ばれます。

後水尾院の宮廷文化、家光の武家文化、光悦の創造性、宗達の革新、遠州の美学などが京都で交差し、身分や立場を超えて新しい美の形式を切り拓きました。

そこには「文化が人々の心を整え、社会の秩序を形づくる」という思想が横たわっています。

寛永期とは「権力」ではなく「文化」そのものが社会の重心となり得ると信じられた稀有な時代であり、その精神が、後世の日本美術、茶の湯、能楽、書画、工芸といった日本文化の礎を形づくったのです。



寛永行幸四百年祭の実施体制

＜監修・顧問体制＞

特別顧問	熊倉 功夫
文化監修	近衛 忠大
有職文化監修	山科 言親
礼法監修	小笠原 清基
美術史監修	実方 葉子
行列文化監修	西山 剛

＜事業統括＞

総合プロデューサー 濱崎 加奈子

＜実施体制＞

寛永行幸四百年祭実行委員会

(京都府・京都市・京都商工会議所、

京都文化交流コンベンションビル等 他)

実行委員長 梅原 和久

【主催事業・連携事業・関連事業の3つの構成】

- ◆ 主催事業：実行委員会による事業
- ◆ 連携事業：実行委員会と事前に協議を行い、四百年祭の趣旨や目的、文脈等を踏まえて実施される事業
- ◆ 関連事業：寛永行幸や寛永文化に関係するテーマを扱う事業で、実行委員会が内容や表現等に関与していない事業

※「主催事業」と「連携事業」については、公式ロゴマークの使用による情報発信を実施

【寛永行幸四百年祭 公式ロゴマーク】

(ロゴマーク制作)

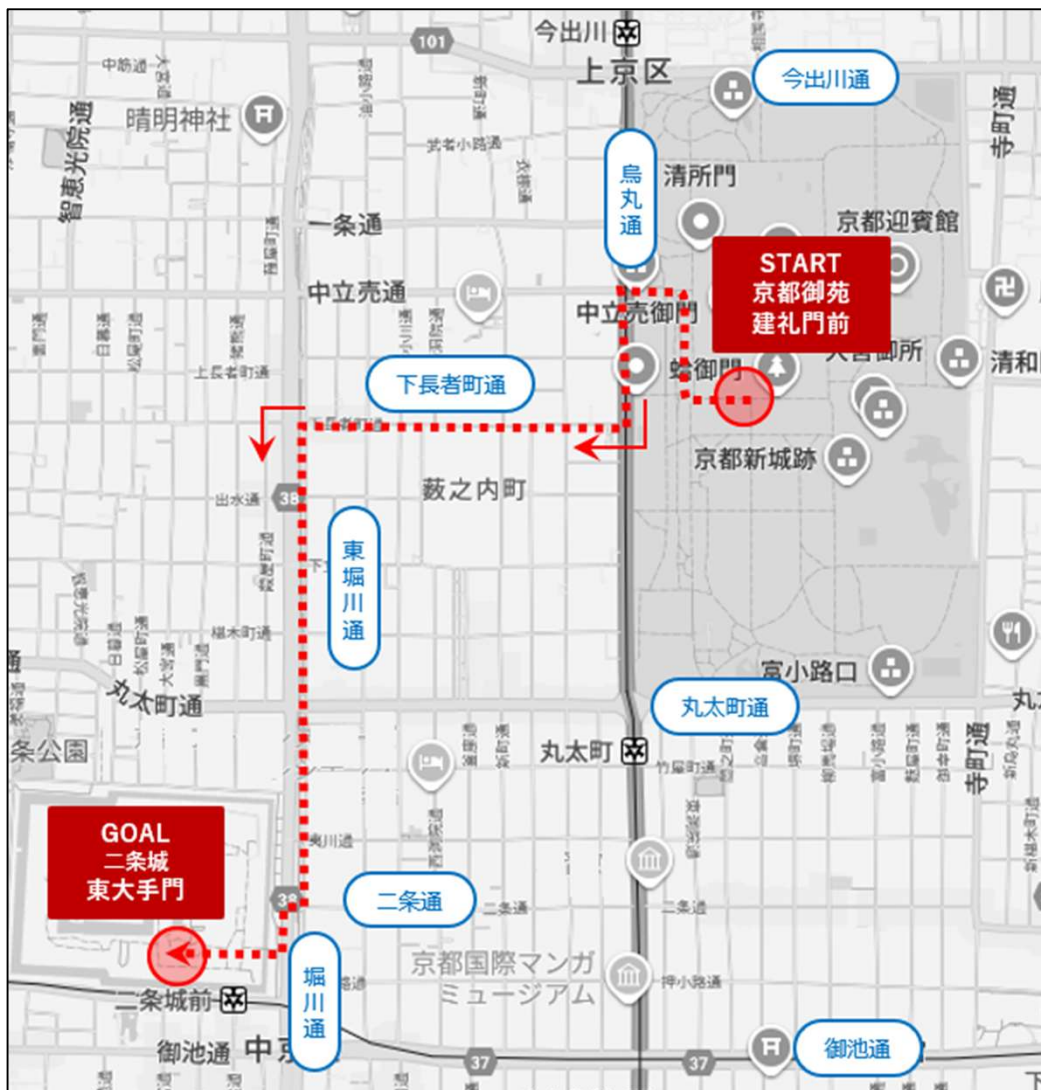
近衛 忠大氏（五摂家筆頭近衛家／クリエイティブディレクター）



- ・後水尾天皇が御所から二条城に行幸された「寛永行幸」は、公武融和を象徴する出来事でした。御所(公家)と二条城(武家)の関係性は、日本の歴史を動かしてきたといえます。
- ・御所と二条城を、地図上で確認すると、二条城が南北軸から東に3度ずれていることがわかります。そこで、この3度のずれをロゴマークに表現しました。
- ・また、「寛永行幸」の文字は、近衛信尋(後水尾天皇の弟で、行幸の実現に向けて将軍家と朝廷の間をとりもち、大きな役割を果たした)の文字を使用(陽明文庫蔵の書物『寛永三年行幸日記』)しました。

寛永行幸行列の再現イベント

- 日程 2026年12月6日(日) 正午頃～（約3時間程度）
- ルート 京都御苑～二条城（約3km）
- 内容
 - 行幸行列の主要シーンを、330人規模で再現
 - 楽人による雅楽演奏を再現
 - 時代装束を着た参加者による観覧席を、京都御苑内に設置



(行列のルート)

京都御苑（建礼門前）出発【午後0時30分頃】⇒
 京都御苑（中立売御門）通過 ⇒ 烏丸通南下（下長者町通へ右折）⇒
 下長者町通西進（東堀川通へ左折）⇒ 東堀川通南下（二条通へ右折）⇒
 二条城（東大手門）到着【午後3時頃】

※イベント当日、元離宮二条城の最終入城時間は正午（閉城午後5時）

【行幸行列の再現】

- 「寛永行幸四百年祭実行委員会」で、詳細な歴史考証・文献考証を実施
⇒ 「寛永行幸記」(金地院崇伝著)、「東武実録」(徳川秀忠の事績録)、
「二条城行幸図屏風」(泉屋博古館所蔵)、絵巻物「御行幸次第」 等
- 歴史・文化・装束の専門家に監修をいただきながら、寛永行幸のエッセンスを抽出する方針で、行列の構成を検証
(監修者) 山科言親氏(衣紋道山科流若宗家)、津田大輔氏(装束研究家)、
西山剛氏(大谷大学講師) 他
- 行列の主要な構成要素を、天皇・将軍・中宮の3つのグループと捉え、
 - ① 寛永行幸の主役でもある「後水尾天皇行列」
 - ② 天皇をもてなしたもう一人の主役「将軍家光行列」
 - ③ 朝廷と幕府を結び付けた「中宮和子行列」

約330人規模の行列として再現(牛車2台、馬15頭も配置予定)。

(一般参加者(公募): 約230名を公募。雅楽の楽人: 約40名
その他、馬術の専門家、スポンサー関係者等: 約60名)

【一日晴の再現】

寛永行幸最大の特徴である「一日晴」(※)を再現

※ 一日晴(いちにちばれ)

束帯は位によって色・素材・模様が決められていたが、寛永行幸では特別な着こなしが許され、下襲や表袴に色とりどりの装束を採用し、おしゃれや自由な気風を表現した。



行列参加の配役は12種類。約230名の一般参加者を決定

- ・ イベント1年前から先行エントリーを実施 ⇒ 約1,800名がエントリー
- ・ 2026年4～5月の1次募集で約670名が応募 ⇒ 約160名の参加者が決定
- ・ 7月の2次募集で約520名が応募 ⇒ 約70名の参加者が決定

(一般参加者：約230名の内訳)

- ・ 北海道から沖縄まで、全国各地から参加
- ・ 50～60代を中心に幅広い世代で行列を構成（最年少：18歳、最年長：78歳）

金額	配役	
1万円	 【白張姿】 白丁・傘持ち・舎人・駕輿丁等	
	 【雑色姿】 退紅、雑色等	 【褐衣姿】 車副
3万円	 【布衣姿】 旗持ち、布衣	 【素襖姿】 長刀持ち、 烏帽子着
	 【褐衣姿】 隨身	 【狩衣姿】 中宮職、布衣
5万円	 【袷姿】 女中 (市女笠あり)	 【大紋姿】 帯刀
	 【赤衣・烏兜姿】 隼人の兵士	 【褐衣姿】 中宮隨身等
10万円	 【打掛姿】 女中（メイク・かつら付）	

- ・ 12月の再現行列は、参加者はもちろん観覧者にも感動を与える本物志向の時代行列とすることを目指す。
- ・ 行列の参加者には、日本文化の精神性や美意識について理解を深めた上で行列を構成いただくため、**事前に弓馬術礼法小笠原流の礼法・作法研修を実施。**

【研修日】

2026年7月～9月に、10回程度実施

【研修内容】

- ・ 「寛永行幸四百年祭」の趣旨説明
- ・ 礼法実践（立ち方、お辞儀の仕方、集団での歩き方 等）

【会場】

賀茂御祖神社（下鴨神社）供御所【重要文化財】



主催事業

行幸行列の【装束観覧席】も設置

- ・ 行幸行列の様子を伝える「二条城行幸図屏風」（泉屋博古館蔵）には、思い思いの装束で、沿道で行列を見物する大勢の観衆が描かれている。
- ・ 本イベントでは、その様子も再現するため、主催者等がご用意する装束を身に付け、**時代絵巻の一部になっていただく「装束観覧席」**をご用意。
- ・ Aコース(10席)、Bコース(100席)、Cコース(30席)の席種で販売（2026年5月）。
⇒ ほぼ完売状態（140席に対して、約310人が応募）
- ・ いずれのコースにも、装束姿のままの散策や、二条城での特別な二の丸御殿入場等の特典付

Aコース 特別装束でのご参加

300,000円(税込)

四百年前の「二条城行幸図屏風」に描かれた観衆の装束をもとに、本事業のために特別に誂えた装束をご用意します。四百年前の歴史の中の一人としてご参加いただきます。

- ※ かつら・メイク付き。
- ※ 着用する装束は、ご返却いただきます。



装束の画像はイメージです。

Bコース 装束でのご参加

30,000円(税込)

主催者をご用意する装束を身にまとい、時代絵巻の一員として、行列を迎えていただきます。

- ※ 着用する装束は、ご返却いただきます。



装束の画像はイメージです。

Cコース ご自身の装束でのご参加

10,000円(税込)

ご自身でご用意いただいた装束・着物を身にまとい、時代絵巻の一員として、行列を迎えていただきます。

- ※ 装束は「二条城行幸図屏風」に描かれた観衆や当時の風俗をイメージしたものをご用意ください。



装束の着用や制作を通じて、和装の推進や伝統産業の振興、技術の継承につなげてまいります。

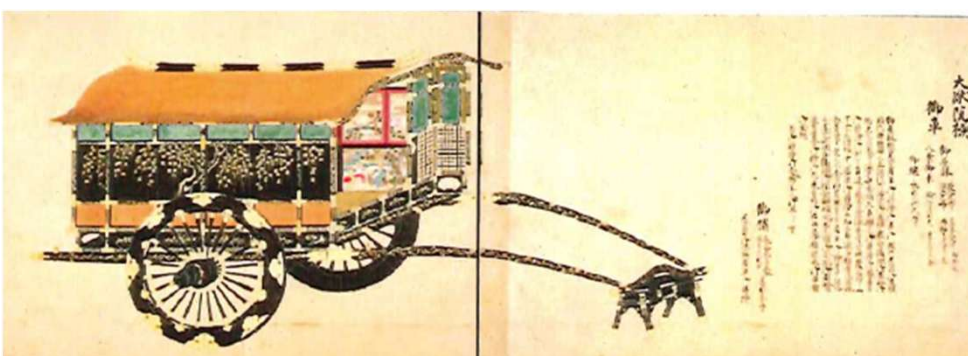
装束・牛車復元プロジェクト

- ・行幸行列を再現するに当たっては、専門家による監修のもと、時代考証や風俗考証を重ね、できる限り史実に基づき、装束や道具類の再現を行っている。
- ・詳細な文献記録が残る、寛永行幸において徳川家光が使用した**装束と牛車を、現代の職人の技術を結集して復元するプロジェクト**にも取り組んでいる。
- ・復元の過程をしっかりと記録冊子や映像として残し、文化の技術と記憶を未来へとつなぐことを目指す。



●徳川家光装束再現プロジェクト

『御装束之図』をもとに、寛永行幸で徳川家光が着用したとされる装束を再現



●牛車修復・再現プロジェクト

『徳川家輿車図』をもとに徳川家光の牛車を再現

- ・ 寛永時代に花開いた文化の特質を様々なジャンルの専門家に語っていただき、多角的な視点から寛永文化の総合性や現代における意義を考えていくため、令和6年から実施。令和8年度も毎月開催。
- ・ 泉屋博古館「寛永行幸と花の都の文化びと」の期間中に開催する記念講座を、「寛永文化講座」としても実施。

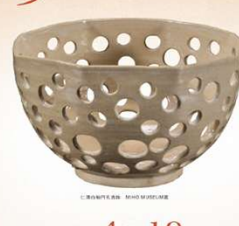
「寛永期の後水尾天皇と東福門院 一幕府統制下での夫妻の歩み」

日 時：9月22日（火・祝）13時30分～15時

講 師：久保貴子氏（日本近世史研究家）

寛永行幸四百年祭
開幕記念講演会

美のかたちと空間
—寛永という時代—



2026年4月19日①
13:00～（開場12:15、終了予定16:30）

参加費 入場無料（事前申込必須・定員200名有）
会場 ANAクラウンプラザホテル京都
（〒600-8501 京都市中京区錦町1-1）
（〒600-8501 京都市中京区錦町1-1）
（〒600-8501 京都市中京区錦町1-1）

お申し込みは
Peatix

寛永文化講座
第10回
芸能からみる
寛永行幸
—天皇と能・武家と雅楽—

11:00（開場10:30、終了予定12:40）
「天皇と能—寛永行幸をめぐって」
11:00～12:00 講演 松岡心平氏（東京大学文学部）
12:00～12:40 対談 松岡心平氏（東京大学文学部）
12:00～12:40 対談 松岡心平氏（東京大学文学部）

14:00（開場13:30、終了予定16:10）
「武家と雅楽—寛永行幸をめぐって」
14:00～15:00 講演 松岡心平氏（東京大学文学部）
15:00～16:10 対談 松岡心平氏（東京大学文学部）

2026年5月17日②
参加費 無料
会場 京都府立京都・歴史館 大ホール
14:00（開場13:15、終了予定15:30）
定員 400名程度（事前申込必須）
お申し込みは Peatix

寛永文化講座
第11回
二条城と寛永行幸
—二条城と寛永行幸—

2026年6月27日③
14:00（開場13:15、終了予定15:30）
参加費 無料
会場 京都府立京都・歴史館 大ホール
14:00（開場13:15、終了予定15:30）
定員 400名程度（事前申込必須）
お申し込みは Peatix

寛永文化講座
第12回
オランダ人が見た寛永行幸
—オランダ人が見た寛永行幸—

2026年7月5日④
14:00（開場13:15、終了予定15:30）
参加費 無料
会場 京都府立京都・歴史館 大ホール
14:00（開場13:15、終了予定15:30）
定員 400名程度（事前申込必須）
お申し込みは Peatix

寛永文化講座
第13回
皇室と茶の湯
—皇室と茶の湯—

2026年8月2日⑤
14:00（開場13:15、終了予定15:30）
参加費 無料
会場 ANAクラウンプラザホテル京都
（〒600-8501 京都市中京区錦町1-1）
（〒600-8501 京都市中京区錦町1-1）
（〒600-8501 京都市中京区錦町1-1）

寛永行幸
文化びと
—文化びと—

2026年9月5日⑥
10:18
会場 泉屋博古館
（〒600-8501 京都市中京区錦町1-1）
（〒600-8501 京都市中京区錦町1-1）
（〒600-8501 京都市中京区錦町1-1）

記念式典・記念講演会（9月5日）

○記念式典

日 時：令和8年9月5日（土）

場 所：ANAクラウンプラザホテル京都

内 容：400年前に行幸が行われた9月6日を翌日に控えた節目に、記念式典・交流会・記念講演会を実施する。

【第1部】

(記念式典) 10:30~11:40

主催者挨拶（京都府知事、京都市長等）

趣旨説明（濱崎 実行委員会プロデューサー）

行列再現、装束再現をはじめとする事業の進捗報告（梅原 実行委員長）

【第2部】

(記念講演) 13:00~14:00

「寛永文化と後水尾天皇」

講師：熊倉 功夫氏（MIHO MUSEUM館長）

内容：寛永行幸は、幕府と朝廷との間で催された江戸時代最大のイベントでした。

和子の入内以後、急速に朝幕関係は改善され、行幸は大成功に終わりましたが、その後紫衣事件が起こり、また不穏な情勢になります。後水尾天皇の視点からその推移を探ります。

[illegible]

○能楽公演「寛永行幸四百年祭記念能」

日 時：令和8年9月6日（日）14:00～17:00（開場：13:30）

場 所：金剛能楽堂

内 容：寛永行幸の際に後水尾天皇と徳川家光が鑑賞した能『猩々』より「乱 双之舞」を上演するとともに、新作能『寛永行幸』を上演。

京都と深く関わる二つの流派を代表する能楽師である、金剛流若宗家・金剛龍謹氏と、京観世五軒家 林家当主・十四世林喜右衛門氏が共に舞台を勤める、能楽史においても極めて稀な機会となる。

番 組：開 口 近衛 忠大

ブレトーク 濱崎 加奈子

新作能『寛永行幸』

クロストーク 近衛 忠大 × 濱崎 加奈子

祝言『猩々乱』



チケット：「LivePocket」から購入(5,000～200,000円) ⇒

正面席、脇正面席（前方）、2階席は完売。

特別な座席「正面席中央前方（※14席、20万円）」もあり。

※ 本席は、本公演を特別な形で支えていただくための座席。特典である「行幸行列再現イベント」への参加等を通じて、四百年前の文化的空間を体感いただくとともに、料金の一部は四百年祭の様々な事業に活用。

（特典）

寛永行幸の再現行列への参加（1名）

または観覧席ご招待（2名まで）

金剛氏、林氏、両氏直筆署名入り特別記念扇子

終演後、能舞台にて両氏との記念撮影

公演記録映像（後日送付・非売品） 等



○「寛永行幸四百年祭 公式ガイドブック」

「寛永行幸」「寛永文化」に関する基礎知識や、多彩な四百年祭事業の楽しみ方をまとめたガイドブックを、令和8年8月12日（水）に発売。

編 者：寛永行幸四百年祭実行委員会

発 行：京都新聞出版センター

定 価：1,000円＋税

販売場所：全国の書店、ネット書店、京なび、二条城売店、
京都新聞販売所、京都新聞出版センターサイト等

内 容：第1章 楽しもう！寛永行幸四百年祭

第2章 寛永行幸—江戸時代、京都が最も輝いた5日間

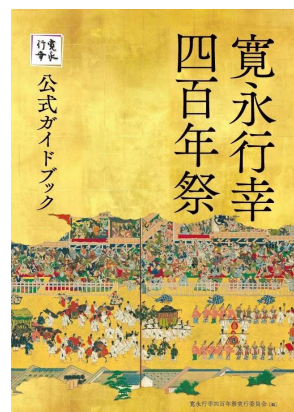
第3章 よみがえる時代絵巻

第4章 学ぶ、触れる、寛永文化

第5章 寛永を歩こう

地下鉄・バスで行こう！寛永文化ゆかりの地スタンプラリー

※ ガイドブックと地下鉄・バス1日券等とのセット販売も実施中



○寛永文化ゆかりの地「スタンプラリー」

実行委員会が配布している「寛永文化ゆかりの地マップ」
の中から「建物、絵、庭」をテーマに、3つのコースの
スタンプラリーを、令和8年7月からスタート



秀忠・家光ゆかり の建物をめぐる	寛永期には時の権力者、徳川秀忠・徳川家光の命より多くの建物が 建造されました。当時の建築物から歴史を感じてみてください。
寛永文化人の 庭をめぐる	小堀遠州など寛永文化を花開かせた茶人・儒学者・僧侶たちは数々 の庭を作り上げたといわれています。
狩野派の作品 をめぐる	寛永期に活躍した絵師、狩野探幽をはじめとする狩野派の作品を鑑 賞できるスポットを集めました。

3コースの全スタンプを押印いただいた方
には先着で「寛永行幸四百年祭・特別記念符
（二条城御城印）」をプレゼント



(京都での主な取組)

団体名	事業名	開催時期
京都陶磁器協会	寛永行幸400年記念特集展	2026.8
月桂冠株式会社	月桂冠大倉記念館企画展「寛永行幸から400年 大名藩邸から酒蔵へ」	2026.9
聖護院門跡	秋の特別公開「後水尾天皇と聖護院」展	2026.10～12
古文化保存協会	京都非公開文化財特別公開	2026.10～12
大本山 大覚寺	〈大覚寺〉秋期名宝展「貞観から寛永」 ～寺号勅許から守り伝えられてきた寺宝～	2026.10～12
松花堂庭園美術館	寛永行幸四百年記念 佐川田昌俊と松花堂昭乗 記念講演会・記念茶会	2026.10
府庁界限まちかどミュージアム 実行委員会	文化庁・府庁界限まちかどミュージアム	2026.10
環境省 京都御苑管理事務所 内閣府 京都迎賓館	京都御苑 寛永行幸四百年祭関連行事 (京都御苑ガイドツアー、迎賓館文化サロン等)	2026.11～12
京都文化交流コンベンション ビューロー	古典の日フォーラム	2026.11
京都市教育委員会	ジュニア京都文化観光大使20周年記念事業	2026.11
池坊華道会	令和8年度旧七夕会池坊全国華道展	2026.11
近世京都学会	近世京都学公開講座「王城の百姓たち－寛永後 の行幸と松ヶ崎の風景」	2026.11
京都市芸術文化協会	第163回明倫茶会「フリースタイルな僧侶たちの 茶会（仮）」	2026.11
京都府立京都学・歴彩館	洛外の寛永行幸 家光の淀、尾張・紀伊藩の伏見	2026.11
京都雅楽塾	京都雅楽塾 第二回 定期演奏会	2026.11
京都商工会議所	京都・観光文化検定	2026.12
京都市観光協会	京の冬の旅	2027.1～3

(他府県の主な取組)

都道府県名	事業名	開催時期
大阪府	天王寺楽所雅亮会 雅楽ゼミナール「江戸幕府と天王寺舞楽」	2026.7.3
大阪府	天王寺楽所雅亮会 第54回雅楽講演会「江戸幕府と天王寺舞楽」	2026.11.24
富山県(高岡市)	高岡市民文化振興事業団 シンポジウム「京文化と高岡を結ぶ歴史の糸」	2026.7.11
東京都	寛永行幸能楽イベント実行委員会 シンポジウム+能公演「寛永行幸と能楽」	2026.7.25
宮城県(仙台市)	仙台市博物館 記念講演会「寛永文化と能」	2026.8.29
滋賀県	MIHO MUSEUM コレクション「花ひらく寛永の美」	2026.9.26～ 12.6
石川県	石川県、加賀料理技術保存会 登録文化財記念フォーラム「加賀料理と京料理を未来へ」	2026.10.4
兵庫県(明石市)	四百年祭関連イベントinひょうご 講演会「寛永文化を国許にもたらした松平忠国の功績」	2026.11.15
熊本県	寛永行幸四百年祭・特別講演「寛永前期における細川家— 寛永行幸から熊本城入城まで—」	2027.1.30
全国の美術館・博物館	「ここにも寛永！」サインを掲示	

寛永行幸四百年
— 京文化と高岡を結ぶ歴史の糸 —

令和8年7月11日(土) 13:30～15:00 (観覧13:00)

会場：高岡市生涯学習センター 鑑蔵ホール (富山県高岡市) (パブリック・スペース)

申込不要 先着300名 参加無料

【イベント】寛永行幸四百年—京文化と高岡を結ぶ歴史の糸—
【特別講演】寛永行幸と高岡の歴史 (高岡市立博物館 館長 高岡 正樹)
【特別展示】寛永行幸と高岡の歴史 (高岡市立博物館 展示室)

寛永行幸四百年記念シンポジウム+能公演
寛永行幸と能楽
戦国の世にビリオドを打った文化外交
2026年7月25日(土) 開演14時 シンポジウム17時
会場：喜多能楽堂 (十四世喜多六平太記念能楽堂)

【シンポジウム】寛永行幸と能楽—戦国の世にビリオドを打った文化外交—
【特別講演】寛永行幸と能楽 (喜多能楽堂 館長 喜多 六平太)

【特別展示】寛永行幸と能楽 (喜多能楽堂 展示室)

寛永行幸四百年記念講演会
寛永文化と能
伊達政宗も
寛永行幸から
600年！

2026年8月29日(土)
13:30～15:00 (観覧13:00)

会場：高岡市生涯学習センター 鑑蔵ホール (富山県高岡市) (パブリック・スペース)

申込不要 先着300名 参加無料

【イベント】寛永文化と能—伊達政宗も寛永行幸から600年！—
【特別講演】寛永文化と能 (高岡市立博物館 館長 高岡 正樹)
【特別展示】寛永文化と能 (高岡市立博物館 展示室)

学生とのコラボ企画

— 家光のゆる絵、東海道をゆく —

- ・ 将軍徳川家光の描いた絵をモチーフとしたぬいぐるみを「各地を經由しながら京都へと向かう存在」と設定し、400年前の家光の上洛ルートである東海道の各宿場町等をつなぎながら、寛永行幸において全国の大名が京都に集った構造を象徴的に表現
- ・ ぬいぐるみ製作者である京都芸術大学の学生2名が、東海道を旅しながら各宿場等の魅力も併せて発信

日 時：令和8年8月20日（木）14時 日本橋出発、約1週間かけて京都へ
協 力：東海道 57 次市町連携協議会（事務局：静岡市）

<将軍家光の絵とぬいぐるみ>



《兎図》（個人蔵）



《木兎図》（養源寺蔵）



学生プロフィール

仲村きね（2007年生） 写真右
千葉県出身 うさぎ担当
京都芸術大学美術工芸学科
染織テキスタイルコース2回生

内藤晴花（2006年生） 写真左
奈良県出身 みみずく担当
京都芸術大学美術工芸学科
染織テキスタイルコース2回生



ご協賛・ご寄付について

ご協賛

四百年祭で実施する事業にご協賛いただいた企業・団体・個人様には、以下のとおり、行列再現イベントへのご参加や礼法・作法研修へのご参加、社名表示等、協賛金額に応じた内容をご用意しております。

ご協賛内容	区分					
	1,000万円以上	200万円以上 1,000万円未満	100万円以上 200万円未満	50万円以上 100万円未満	30万円以上 50万円未満	30万円未満
① 行列イベント参加	● 10名	● 10名	● 5名	● 2名	● 1名	
② 行列イベント観覧席	● 5名	● 5名	● 2名	● 1名	● 1名	
③ 礼法・作法研修参加	●	●	●	●	●	
④ 四百年祭祝宴参加	● 5名	● 5名	● 2名	● 1名	● 1名	
⑤ 二条城内パネルでの社名表示	●	●	●	●		
⑥ パネルでの社名表示(主な事業の会場内)	● 特大	● 大	● 中	● 小		
⑦ 行列イベント配布資料への社名表示	● 特大	● 大	● 中	● 小	● 小	
⑧ ホームページでのロゴマーク表示	● 特大	● 大	● 中	● 小		
⑨ ホームページでの社名表示	●	●	●	●	●	●
⑩ 公式記録集での社名表示	●	●	●	●	●	●
⑪ 寛永文化支援企業としての認定	●	●	●	●	●	●

ご寄付

四百年祭で実施する事業にご寄付いただいた企業・団体・個人様には、協賛金額に応じて、上記の協賛内容に準じた社名・個人名の表示等（⑤～⑪）を行います。

寄付については、「寛永1626基金」や京都府の企業版ふるさと納税にて募集しています。いずれの制度も税制上の優遇措置が受けられる場合がございます。

詳しくはQRコードからご確認ください。

<寛永1626基金>

公益財団法人・京都文化交流コンベンションビューロー「寛永1626基金」で寄付を募集しています。当財団に対する寄付金には、税制上の優遇措置が適用されます。詳細は管轄の税務署または税理士までご相談ください。

<京都府企業版ふるさと納税>

京都府の企業版ふるさと納税による寄付を募集しています。企業版ふるさと納税とは、企業の皆さまが地方公共団体の行う地方創生の取組に対して寄付を行った場合に、税制上の優遇措置が受けられる仕組みです。



詳しくはこちら



寛永行幸四百年を記念した展覧会や、寛永の美に触れることのできる作品の展示が、京都文化博物館、泉屋博古館、二条城障壁画展示収蔵館（3館の情報は次頁以降）を中心に、京都一円の13館で展開されます。

<https://kaneigyoko400.jp/tsunagarum/>

<いけばな資料館>

特別展示 ①「桃山文化から寛永文化へ」

②「寛永文化と立花」

会 期 ①開催中～10月30日(金)

②11月13日(金)～2027年10月末(予定)

<相国寺承天閣美術館>

企画展「後水尾院の京」Ⅱ期

会 期 8月2日(日)～9月27日(日)

<樂美術館>

樂歴代 特別展「菊花繚乱」

会 期 9月1日(火)～12月24日(木)

<野村美術館>

「寛永時代の茶の湯」

会 期 前期：9月5日(土)～10月18日(日)

後期：10月24日(土)～12月6日(日)

<京都府立 京都学・歴彩館>

「洛外の寛永行幸 家光の淀、尾張・紀伊藩の伏見」

会 期 9月12日(土)～11月8日(日)

<茶道資料館>

特別展「玄々斎」－裏千家十一代家元

精中宗室百五十回忌記念－（仮）

会 期 前期：9月29日(火)～11月1日(日)

後期：11月3日(火・祝)～12月6日(日)

<泉涌寺宝物館心照殿>

「江戸初期の公武と泉涌寺」

会 期 9月29日(火)～2027年1月24日(日)

<有斐斎弘道館>

「京菓子展2026－寛永行幸絵巻」

会 期 10月1日(木)～10月15日(木)

<八幡市立松花堂庭園・美術館>

**特別展「八幡で感じる寛永文化 松花堂昭乗の
書画、茶の湯」**

会 期 10月17日(土)～12月6日(日)

<京都市歴史資料館>

**特別展「二条城と江戸開府～慶長から寛永の
京の城～」**

会 期 10月31日(土)～2027年1月17日(日)



京都文化博物館

寛永行幸四百年祭開催記念 特別展「寛永 太平がはぐくむ美」

寛永3年（1626年）9月6日から10日まで、江戸幕府を統べる大御所・徳川秀忠、将軍・家光が後水尾天皇を二条城に招き、もてなした出来事が寛永行幸です。それは朝廷と幕府の融和と平和の到来を象徴的にあらわす政治儀礼でした。5日間にわたる催しでは、善美を尽くした座敷飾り、贅沢な料理、舞楽、能楽、和歌や管弦の遊びなど、最上級のもてなしが繰り広げられました。

またこの時期には、本阿弥光悦、俵屋宗達、野々村仁清、池坊専好など名高い芸術家が登場し、「寛永文化」が花開きました。

本展では、寛永文化と寛永行幸を軸に、江戸時代初期に花開いた京都文化の粋を紹介します。

◆章構成

プロローグ 元和偃武一関ヶ原・大坂の陣を超えて

第1章 菊と葵

第2章 復元・寛永行幸

第3章 持続する文化活動

エピローグ



会 期：2026年9月19日（土）～11月15日（日）

【前期】2026年9月19日（土）～10月18日（日）

【後期】2026年10月20日（火）～11月15日（日）

※期間中、展示替え及び巻替えがあります。

会 場：京都文化博物館 4階・3階展示室

（〒604-8183 京都市中京区三条高倉）

開室時間：10時～18時（金曜は19時30分まで）※入場はそれぞれ閉室の30分前まで

休 館 日：月曜日（ただし、9月21日、10月12日は開館）、9月24日（木）、10月13日（火）

入場料金：

入場料金（税込）	一般	大高生	中小生
当日券	1,800円	1,200円	600円
前売/団体（20名以上）	1,600円	1,000円	400円

※前売券は9月18日（金）まで販売。（会期中は当日券のみ）

※未就学児は無料（ただし、要保護者同伴）。

※障がい者手帳等をご提示の方とその介護者1名は無料。（要証明）

※学生料金でご入場の際には学生証をご提示ください。

※上記料金で2階総合展示室と3階フィルムシアターもご覧いただけます。

（ただし、催事により別途料金が必要な場合があります。）

主なチケット販売場所：京都文化博物館、ローソンチケット（Lコード：55312）、公式オンラインチケット

（アソビュー！）、展覧会チケット（etix）、チケットぴあ（Pコード：687-488）、

セブンチケット（セブンコード：116-579）、イープラスなど

◆その他、familiarオリジナルバッグ付きチケット、オリジナルブックカバー付きチケット、前売ペアチケット、寛永をめぐる2館セット券などの企画チケットも販売中！

詳しくは、展覧会公式サイトをご覧ください。

◆音声ガイドナビゲーターは尾上右近さん！（貸出料金：700円[税込]）

主 催：京都府、京都文化博物館、読売新聞社

共 催：寛永行幸四百年祭実行委員会

協 力：京都市（元離宮二条城事務所）、泉屋博古館、（一社）Living History KYOTO

協 賛：きんでん、清水建設、大和ハウス工業、非破壊検査

後 援：NHK京都放送局、（公社）京都府観光連盟、（公社）京都市観光協会、KBS京都、エフエム京都

お問合せ：京都文化博物館 電話 075-222-0888

展覧会公式サイト：https://www.bunpaku.or.jp/exhi_special_post/20260919-1115/

◆本展の見どころ

①菊と葵

朝廷と幕府の融和を目指したキーパーソンを紹介

②実録：寛永行幸

貴重な資料で寛永行幸の実態を究明

③華やかな寛永文化の世界を紹介

本阿弥光悦や野々村仁清など、寛永期の美術工芸品が大集合

④『刀剣乱舞ONLINE』とのコラボレーション

刀剣男士「二筋樋貞宗」「骨喰藤四郎」のコラボチケットやグッズを販売、
展示室内には等身大パネルを設置

⑤寛永行幸行列をもっと深掘り

泉屋博古館と当館の2館をめぐるセット券を販売、寛永行幸行列の再現イベントの予習に最適！

◆主な出品作品



《参内図屏風》 京都文化博物館 (通期展示)



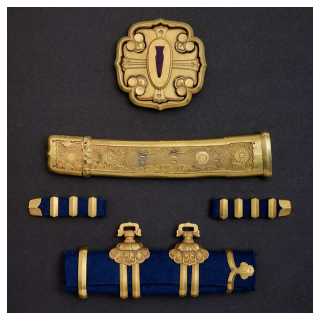
重要文化財《刀無銘貞宗（名物二筋樋貞宗）》株式会社ニトロプラス
(展示期間：10月17日～11月15日)



《寛永行幸絵巻》(部分) 個人 (通期展示)



重要文化財 大広間四の間《松鷹図》(部分) 狩野山楽
京都市(元離宮二条城事務所) (後期展示)



《金無垢地菊文唐草図毛抜形太刀金具》
後藤光信(寛乗)個人



《源氏物語和歌色紙貼交屏風》(右隻) 近衛信尹
陽明文庫 (後期展示)



重要文化財《花唐草文螺鈿経箱》
本阿弥光悦京都・本法寺(後期展示)

◆展覧会の最新情報、イベント、アクセス等は展覧会公式サイトをご覧ください。
展覧会公式サイト：https://www.bunpaku.or.jp/exhi_special_post/20260919-1115/

泉屋博古館

寛永行幸400年記念特別展「寛永行幸と花の都の文化びと」

江戸時代のはじめの寛永3（1626）年9月、徳川秀忠・家光の招きに応じ、後水尾天皇が京都・二条城に行幸しました。その初日には、二条城へむかう天皇や公家衆、奉迎する將軍率いる全国の大名らによる史上稀にみる大行列が、京のまちに繰り広げられました。その様子を描く《二条城行幸図屏風》（泉屋博古館）は、絢爛たる貴人のみならず、全国から集い着飾り浮かれ騒ぐ見物人までも活写します。

本展では、泰平の世を告げ新たな文化胎動につながった寛永行幸を振り返るとともに、そののち17世紀後半にかけて展開した優美な寛永文化について、東福門院（徳川和子）という一人の女性を起点に見つめていきます。そして後水尾天皇、小堀遠州、千宗旦、野々村仁清など、身分を越えきら星の如く輩出した文化人たちの美意識と交流を紹介します。

会 期：2026年9月5日（土）～10月18日（日）

会 場：泉屋博古館 企画展示室（〒606-8431 京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24）

休 館 日：月曜日（9月21日、10月12日は開館）9月24日（木）、10月13日（火）

開館時間：午前10時～午後5時

主 催：公益財団法人泉屋博古館

お問合せ先：泉屋博古館 〈広報窓口 pr-kyoto@sen-oku.or.jp〉

〒606-8431 京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24

T E L：075-771-6411 / F A X：075-771-6099



京都市指定文化財《二条城行幸図屏風》江戸時代・17世紀 泉屋博古館

行幸初日、天皇や公家衆、將軍や大名らによる大行列を描く。繊細な描写、優美な彩色、高度な記録性、旺盛な風俗表現などいずれも類をみず、近年京都市の指定文化財となった。画面を埋め尽くす老若男女の観衆は、行幸景気に沸く京都の空気を今に伝える。



京都市指定文化財《東福門院像》
江戸時代・17世紀 光雲寺



京都府指定文化財
《東福門院御料 唐衣表着》
江戸時代・17世紀 靈鑑寺
展示期間：9月5日～9月27日



《小井戸茶碗 銘 六地藏》
中興名物 朝鮮時代・16世紀
泉屋博古館東京
小堀遠州愛蔵

野々村仁清《信楽写兔耳付水指》
江戸時代・17世紀 三井記念美術館
東福門院好み



元離宮二条城

二条城二の丸御殿の障壁画は、後水尾天皇の行幸に先立ち、徳川将軍家が寛永元年から3年（1624～26）にかけて行った大改修の際、狩野探幽率いる狩野派の絵師たちによって描かれました。1982年には、御殿に残る約3600面の障壁画のうち1016面が美術工芸品（絵画）として重要文化財に指定されました。

元離宮二条城では、これらの貴重な障壁画を恒久的に保存するため、1972年から二の丸御殿障壁画の模写を行っており、現在、式台、大広間、黒書院及び白書院の障壁画のほぼ全てを模写障壁画にはめ替え、原画（オリジナル）を順次「二条城障壁画 展示収蔵館」に収蔵し、展示公開しています。2026年度は「寛永行幸400年」をテーマとして、寛永行幸の際に使用された二の丸御殿の部屋の障壁画を4期にわたって公開します。

会 期：春期、夏期、秋期、冬期の4期

公開内容： (1) 春期 〈式台〉式台の間 【 終 了 】
(2) 夏期 〈大広間〉三の間 【 終 了 】
(3) 秋期 〈大広間〉一の間・二の間【令和8年 9月10日(木)～令和8年11月 8日(日)】
(4) 冬期 〈黒書院〉一の間・二の間【令和8年11月19日(木)～令和9年 1月17日(日)】

入館時間：9時～16時30分（閉館は16時45分）

※元離宮二条城の入城受付は、16時まで

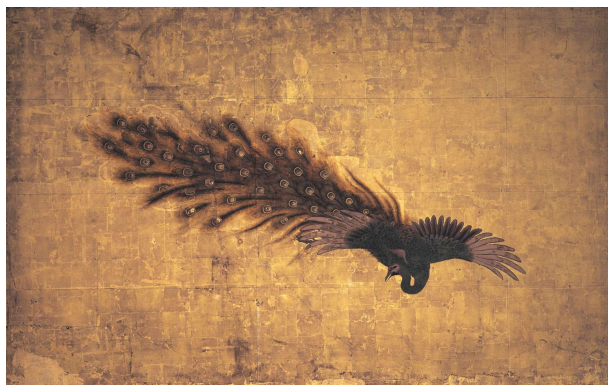
場 所：元離宮二条城内 二条城障壁画 展示収蔵館
(〒604-8301 京都市中京区二条通堀川西入二条城町541番地)

入 館 料：100円（未就学児無料）※別途入城料が必要

問合せ先：京都市文化市民局元離宮二条城事務所
〒604-8301 京都市中京区二条通堀川西入二条城町541番地
T E L：075-841-0096／F A X：075-802-6181



重要文化財 狩野尚信筆 二条城二の丸御殿障壁画〈黒書院〉
一の間 《桜花雉子図》（部分） 寛永3年（1626）
京都市（元離宮二条城事務所） ※冬期展示予定



重要文化財 狩野探幽筆 二条城二の丸御殿障壁画〈大広間〉
二の間 《松孔雀図》（部分） 寛永3年（1626）
京都市（元離宮二条城事務所） ※秋期展示予定

ニコニコ美術館 二条城生配信「寛永行幸400年を迎える世界遺産・元離宮二条城を巡ろう」

ニコニコ美術館でお馴染みの橋本麻里氏と二条城学芸員がタッグを組み、寛永行幸の歴史的背景や当時の様子を紐解きながら、二条城内の関わりの深い場所を巡ります。



生配信日時 令和8年9月7日(月)17時10分から
アクセス方法 以下の二次元コードからアクセスまたは「ニコニコ美術館」と検索してください。
無料。会員登録不要。
主催 京都市文化市民局 元離宮二条城事務所

